

4月1日付で新たに11人の教職員の皆さんが採用されました。自己紹介を兼ねて抱負などを寄せていただきました。（敬称略）

## よろしくお願ひします！ 新規採用教職員紹介

### ◆黒田 誠（医学検査学科教授）

街歩きや山登りが好きで、その地域特有の空気感を楽しむのが好きです。病原体は生息域や宿主などに対する適性・個性があり、ゲノム情報が強く関与しています。それをゲノム情報解析で解明するのが趣味です。

### ◆富田 文子（医学検査学科教授）

これまでは済生会熊本病院で超音波検査と人材育成に携わっておりました。リーディング大学にふさわしい「知識」「技術」「思慮」「仁愛」をあわせ持った教育に貢献していきたいと思ひます。教育の現場は初めてですので、周囲の方の支援を受けながら努力して参ります。よろしくお願ひ致します。

### ◆横山 俊朗（医学検査学科教授）

これまでの大学病院での実務経験を活かし、病理部・検査部における検査の重要性や役割を伝えていければと思っております。これより学生の皆さんと医療人に必要な研究と教育を実践していきたいと思ひます。皆様のご指導とご協力をよろしくお願ひ致します。

### ◆熊谷 有記（看護学科教授）

これまでお会いした学生さん、患者さん、教職員の方々に教員として、人間として育てていただきました。これから熊本保健科学大学での出会いを楽しみにしながら、少しでも恩送りをしていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

### ◆三輪 富士代（看護学科教授）

これまで看護基礎教育課程で教育に6年、臨床での看護を29年経験し、2007年に小児看護専門看護師の認定を受けました。前職では福岡市立こども病院に14年、うち8年は看護部長として勤務してきました。本学理念に則り、人材育成、小児看護の質の向上に少しでも貢献できればと考えております。

### ◆佐藤 公美（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻助教）

出身は宮崎県で、宮崎県で4年、徳島県で17年、小児の言語・聴覚障害領域の臨床に携わってきました。熊本県に住むのは初めてで、ここでの生活を楽しみにしています。大学では臨床経験を授業に活かせるよう努力して参ります。よろしくお願ひいたします。

### ◆前田 ひとみ（大学院特任教授）

熊本大学を定年退職し、本学の一員となりました。これまで取り組んできた大学生と高校生がともに学ぶ健康教育等の経験を活かしながら、本学での教育・研究に挑戦していきたいと思ひています。どうぞよろしくお願ひいたします。

### ◆山口 新平（就職・実習支援課）

前職では、医療系大学の事務職員として勤務しておりました。柳川市に住んでおり毎日電車通勤しています。一日でも早く業務に慣れて、本学の発展に貢献できるよう尽力してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

# ピア・サポ始動

## 新入生に寄り添い 履修登録相談会も

新入生を対象にしたオリエンテーションが3日（水）から8日（月）にかけて実施され、ピンクのユニフォーム姿のピア・サポーターが教科書販売や健康診断会場などへの誘導、キャンパスツアーなどで新入生を手厚くサポートしました。昼休み時間帯にはキャンパステラスで「履修登録相談会」も開催し、連日、多くの新1年生が訪ねていました。

入学式翌日の3日には、ピア・サポメンバーがまだ不案内な新入生を学科ごとの会場に誘導しました。また、教科書販売をスムーズに行うため、10人編成のグループにピア・サポ2人が付き、待機時間を利用した「学内ツアー」も実施。一行は、講義室や保健室、事務室、学生掲示板、AED設置場所など、大学生活を送る上で知っておきたい所を回りました。

一方、4～8日の平日3日間開いた履修登録相談会には、「選択科目に迷っています」「どんな内容の科目かわかりません」といった新入生が来訪。メンバーは先輩としての経験談を交えながら、親身になってアドバイスしていました。（NL編集部）



履修登録相談会で、ピンクのユニホーム姿で新入生の質問に答えるピア・サポーター



## 歓迎のビンゴゲーム

新年度を迎え、キャンパスは新入生歓迎ムードで一色。4日（木）には学友会主催の歓迎会がレストラン・ピリアで開かれました。満員となった会場には料理や飲み物が用意され、各テーブルでは新入生同士が自己紹介する姿が見られました。約20人の「頼れる先輩、学友会メンバーのリードでビンゴゲームを楽しみました。（NL編集部）」

今週の1枚

# よろしくお祈いします！

## 新規採用教職員紹介

1面続き



### ◆藤本 真美（経理課）

本学がある西里に30年近く住んでいます。事務職は長年経験していますが、学校事務は初めてです。自然が多い素晴らしい環境で、学生の皆さんが夢に向かって勉学に励んでいただけるよう、微力ながら尽力いたします。



### ◆瀬藤 璃音（アカデミックスキル支援センター）

3月まではアカデミックスキル支援センターで学生指導員をしていました。本学の卒業生であることとセンターでの4年間の活動経験を活かして、大学での学びの楽しさを伝えられるよう尽力いたします。どうぞよろしくお祈いいたします。

### ◆伊藤 路穂（総務課）

派遣社員として働いた大学事務の経験を活かし、学生の皆さんや先生方が円滑にいくように頑張りますのでどうぞよろしくお祈いいたします。

# 充実の毎日「検査技師は天職」

久留米大学病院 臨床検査部

六反田 茉莉花さん

(2021年3月卒)

昨年9月の福岡県医学検査学会で、久留米大学病院臨床検査部の六反田茉莉花さん(25)が行った症例報告が、最優秀症例報告賞に選ばれました。今年4月には韓国・京畿道臨床病理士学術大会で同症例を英語で発表します。本学医学検査学科を卒業後、同病院に入職して丸3年。六反田さんは、「臨床検査技師は天職」と言い切り、充実した毎日を送っています。

(NL編集部)

福岡県医学検査学会で最優秀症例報告賞



「患者の救命にかかわれる喜びが日々のエネルギー」と、笑顔で話す六反田さん

担当した50代男性の心電図検査で、ほとんどが予後良好所見として認識されているJ波の微細な変化に気づいたのがきっかけでした。この日、男性は失神したために、同病院の外来を受診していたところでした。そこで、通常12秒で終わる検査を3分間に延長して経過を観察したところ、極めて危険性の高い波形(ST上昇)が出現。「この時点でいつ倒れてもおかしくない危険な状態でした」

患者の不安を煽らないように冷静に対応することを心がけ、直ちに医師に報告。医師が検査室に来た時には危険な波形は消失していましたが、その後の検査で無症候性冠攣縮発作による一過性のST上昇が失神の原因であると診断されました。学会では、突然死を引き起こす可能性のあるJ波症候群と冠動脈の攣縮の合併診断に至った今回の症例を報告し、その希少性と治療への貢献度が高く評価されました。

小学生の頃から漠然と医療関係の仕事に就くことを思い描いてきたといいます。臨床検査技師を明確に意識したのは、進路選択を迫られた高校時代でした。本学への進学は「国家試験合格率の高さもありましたが、前身となる銀杏短期大学の創始者(六反田藤吉氏=第2代理事長・学長)が身内と知り、ご縁を感じた」ことが決め手となりました。

「知識が豊富な先生方の親身になっての指導」に接した大学時代に夢の輪郭をはっ

きりとしたものにし、あこがれていた職場では「高い意識をもって高度な医療を求める上司や先輩に囲まれ充実しています」。何よりも縁の下の力持ちとして、患者の救命にかかわれる喜びが日々のエネルギー源になっていて、「今では、この仕事以外、何も考えられません。検査技師は天職です」と、言い切ります。

目下の目標は「心エコー技術の習得」。「『常に人より倍の努力を』と自身に言い聞かせてきた」という若手技師の姿は、先輩たちの目にも「日頃からよく勉強している努力家」として映っています。同病院臨床検査部の内藤嘉紀部長は「何事も前向きにとらえる姿勢と向上心はピカー。今回の受賞も、彼女の日頃の取り組みの賜物」と、目を細めていました。



真剣な表情で心電図検査に臨む六反田さん

## ■「広報あそ」が阿蘇プロジェクト特集

健康寿命の延伸に向け本学と阿蘇市、阿蘇中央高校の3者が連携して取り組んでいる「阿蘇プロジェクト」が、阿蘇市の広報誌「広報あそ」4月号で取り上げられました。

「阿蘇プロジェクトって何？」と銘打った4頁にわたる特集。プロジェクトの概要と狙いのほか、昨年度2回行われた体力測定会、取り組みを支える同校生徒と本学学生たちの姿などを生き生きとした写真と記事で紹介しています。

本学と阿蘇市、阿蘇中央高校は昨年2月に包括連携協定を締結。実質1年目となる昨年度は、同市内の高齢者を対象とした体力測定会を開き、そこで得たデータを基に生活習慣の改善に向けたアドバイスなどを行いました。

「広報あそ」4月号は、阿蘇市ホームページで閲覧できます。(NL編集部)



「広報あそ」4月号に掲載された阿蘇プロジェクト特集（阿蘇市ホームページより）

## インフォメーション

### 週間行事予定（4月16日～21日）

4 / 20 (土)

4年生保護者会

(13:00～ 50周年記念館, 1号館, 2号館, 3号館)